

## すくわくプログラム推進事業実践報告書

所在地	新宿区中落合 3-21-10
施設名	ウイズブック保育園中落合

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と影

<テーマの設定理由>

本園では、オリジナル絵本を用いたウイズブックプログラムを毎日実施し、子どもの興味や発達に合わせて遊びや活動へと想像を広げられる環境があります。  
また、子どもの気づきや「やってみたい」という思いを大切にし、日当たりのよい屋上では光や影の変化を感じながら遊ぶことができます。  
子どもたちは影の動きや形の変化に気づき、指さしたり体を動かして確かめたりする姿が見られることから、光と影への興味関心があると考えました。

### 2. 活動スケジュール

- ・戸外で光と影を見つける。
- ・室内の光と影を観察をする。
- ・動きのある影で遊ぶ。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

〈素材・道具〉

- ・影と光の写真
- ・センサリーボトル ・白い画用紙（中心に様々な形の穴を開けて使用）
- ・窓、ロールカーテン
- ・プロジェクター ・プロジェクター用電池 ・影が面白そうな様々な玩具 ・ランプ

〈環境設定〉

- ・玄関に光と影を探しに行く。
- ・光と影が出る時間帯にバギーをよけて、広いスペースを準備しておく。
- ・窓際にセンサリーボトルを置く。 ・壁のライトの下に様々な形の穴を開けた画用紙を貼る。 ・窓のロールカーテンを開ける
- ・壁に大きな光を映す。光は白にし、光の白と影の黒で明暗がよくわかるように する。
- ・保育者が体を使った影を見せたり動かしたりしながら模倣を誘っていく。

### 4. 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・戸外で光と影を見つける。
- ・室内で影の写真と光(太陽)の写真を見せて、「これなあに？」と問いかける。 ・明るい場所と暗い場所を探すため、玄関に出て探索する。 ・光（太陽）や影を見つける。
- ・センサリーボトルを太陽の光が届く時間帯に窓際に置いて、光の様子を観察する。
- ・壁のライトの下に様々な形の穴を開けた画用紙を貼り、壁際に出来た影を観察する。
- ・窓のロールカーテンを開けて時間経過による変化を観察できるようにする。
- ・クラスを2グループに分けて少人数で行う。 ・遊びの中で体で丸を作ったり手でグーチョキパーの動きを楽しむ。 ・部屋を少し暗くしランタンの光に保育者のグーやチョキを当てて壁にどう映るかを 見てみる。 ・さらに暗くしてプロジェクターで全身を映して影を楽しむ。 ・全身の影で十分に楽しめたら、簡単な踊りを踊ったり玩具の影を試し影への興味を より深めていく。

## ＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関

玄関先を探索している子どもたちは、日向に映る自分や保育者の影に気づき、不思議そうに指をさしたり手を振ったりして楽しんでいました。保育者が上を見ていることに気づくと、太陽の光を眩しそうに見上げ、日陰と日向を行き来しながら、影が見えなくなる場所にも気づく姿がありました。窓際に置いたセンサーボトルの色付きの光を見つけると、「わー、びんくあお」と声をあげて喜び、手に取ってじっくり観察する子もいました。また、穴の空いた画用紙を使って影を観察すると、最初は新しい掲示物としてじっくり眺めたり、穴の形に興味を示したりしていました。時間が経つにつれ、うっすらと見える影に気づく子もおり、午睡後にカーテンを開けると光を発見して近づき、自分の影を見て楽しむ姿も見られました。窓の外にできた門の黒い影を指差し、「これは何？」と保育者に教えてくれる子もいました。

プロジェクターを使った影の活動では、暗さやランタンの光に慣れた後、光や影に興味を持つ子どもたちが多く見られました。「こわい～」と不安がる子には抱っこで寄り添い、「大丈夫だよ」と声をかけながら一緒に影に触れる体験をしました。保育者が「タッチしてみる？」と声をかけると、「うん」と応え、安心しながら影に触れて楽しむ姿がありました。途中で保育者の眼鏡が外れるハプニングがあり、その影を映すと子どもたちは喜んで「めがね～」と声をあげ、部屋にある玩具のさまざまな影を確かめながら遊んでいました。また、保育者がうさぎになって「びよんびよん」と動くと、子どもたちも「びよん！」と真似して一緒に遊ぶ姿も見られました。

子ども同士でも、影や光を見つけると「見て！」と知らせ合ったり、手を振ったり「お～い」と声をかけ合ったりして、楽しさを共有していました。子どもたちは光や影を自分で発見したり触れたりする中で、友だちや保育者との関わりを通して好奇心を広げ、安心しながら表現や遊びを楽しむ姿が見られました。

## 5. 振り返り〈振り返りによって得た先生の気づき〉

活動では、写真をきっかけに戸外で光や影を探することで、子どもたちは実物に気づき興味を深めていた。高月齢児は主体的に探索し、低月齢児も他児の姿から影や光に関心をもつ様子が見られた。環境や時間帯によって見え方が変わるため、活動設定の工夫の大切さも感じられた。センサーロボットや室内の光あそびでは、自ら発見したり試したりする姿が見られ、探求へとつながっていた。また、玩具の影や簡単な動きを通して影への理解が深まり、安心できる関わりの中で楽しむことができていた。今後は自分で影を作ったり変化させたりする遊びへと発展させ、光や影への興味をさらに広げていきたい。